

博士人材の社会の多様な場での活躍促進に向けて【概要】(案)

～大学の研究者に捉われないキャリアパスの確立を目指して～

(これまでの検討の整理)

－ 科学技術・学術審議会 第8期人材委員会 －

平成29年1月16日

1. はじめに

【国際的な動向】

- ・「超スタート社会」の到来をはじめとするパラダイムシフト
- ・既存の体制に代わる新たな入チームが生まれる兆し
- ・先行きの見通しを立てることが難しい大変革時代

【求められる人材】

- ・変化を的確にとらえ、新しい知識やアイデアを創出
- ・高度な専門知識に加え、既存の知識に捉われない柔軟な思考と発想

「知のプロフェッショナル」である博士人材

我が国の未来を牽引し、大学等のアカデミアの場はもとより、産業界をはじめ社会の多様な場で活躍することで、科学技術イノベーションの可能性が広がる

イノベーションの重要な土壌のひとつは「多様性」

博士人材が多様な場において、性別や国籍を問わず、研究者としてのみならず、幅広い職種を通じてその有する能力を思う存分発揮し、活躍できるような「多様性」を育む社会的な環境の構築

博士人材を「育成する場」(大学院博士課程)の動向を念頭に置きつつ

「活躍する場」(学界や産業界等の多様な場)に焦点を当て
今後の取組の方向性について検討

2. 博士人材の社会の多様な場での活躍促進に向けた現状と課題

(1) 博士号取得者の状況

・キャリアパスの状況が、分野や学生種別により、大きく異なる

- 分野や学生種別ごとに区分し、実態把握した上で、必要な取組を検討
- 博士号取得数年後の状況を継続的に把握・分析

・大学等における従前の取組の結果、ポストブク経験後、アカデミア以外の場で活躍する者が増加

- 大学等における組織的な取組に資するよう、先進的な取組成果を全国的に普及
- 競争的資金等の研究代表者は雇用するポストブク等の育成やキャリア形成に資する適切な指導を実施
- ・ポストブク等の若手研究者の多くは、大学等のアカデミアの場での研究志向が強い
- 分野ごとの産学間の人材需給の状況にも留意し、若手研究者の意識改革を促進
- 産学官の各研究機関における多様なキャリアパスの構築に向けた取組を一層推進
- 海外で博士号を取得した優秀な者の我が国への呼び戻しの視点も重要

(2) 大学や公的研究機関における状況

- ・若手教員(研究者)の任期なし雇用の減少・任期付き雇用の増加など、安定した研究環境の確保が課題
- 若手の安定自立したポストの質・量ともに充実に向け、基盤的経費を確保しつつ、必要な取組を推進

(3) 産業界(特に民間企業)における状況

- ・我が国の産業界における博士人材の有用性に対する意識には確実に変化
- 博士人材を積極的に採用し、活躍している多くの事例を収集した上で、博士人材や社会に広く情報発信

(4) 社会一般における状況

- ・博士人材の活躍する場は大学や公的研究機関、民間企業以外の多様な職種に拡大
- キャリアパスの明確化に向け、活躍事例を収集して可視化するなどの取組を推進
- 個々人の自助努力のみならず、様々な機関による組織的・制度的なバックアップ